



Millennium

Christmas

「世紀末で千年紀末で年末、かつ週末なクリスマスがやってきます。まさに奇跡的な確率で我々はこの記念すべき時代に生きていた事を改めて認識したいものですね」

「そーだねー、でもクリスマスは年末に決まってるやん」

「そりゃあ、元々キリストの降誕祭は冬至の祭と時季が一緒だから、それと一緒にになったのか、あるいは取って代わったのかで、出来上がったものだから年末は仕方がないよ」

「えー、オーストラリアだったら真夏のクリスマスじゃないのさあって、別に年末は年末なんだよねえ」

「南半球と言えど、暦は一緒」

「そうなんだよねえ、それにしてもなんでクリスマスは丁度二学期が終わった時なんだろお、わたしは通信簿によってクリスマスケーキが食べさせてもらえなくなる危険と常に背中合わせな日々を過ごしていたものです。でもね、なんで他人の誕生日を祝わなくっちゃいけないのお？」

「キリストが誕生しないことにはキリスト教は始まらない、創始者の誕生を祝わないわけではないだろう」

「そうか、そうなのかってなんて分かりきった答えはあたしは求めておりません！」

「だったらなにを求めているのかなあ？」

「うーんと、クリスマスを迎えると、ああ、今年ももう終わりだなあ、どーせならクリスマス休暇が欲しいなあってことを思い、なんかもう終わってしまった気がするのになぜ？ とかの答え」

「それは一般的な質問じゃない、極めて個人的で特殊な質問だから、答えようがないなあ」

「うう。やっぱそう、やっぱそうなんだよお、なんかクリスマスってクリスマスになるまでがずーっと楽しくって、イブが絶対に楽しくって明けた当日はなんかもう終わってしまった閑散とした木枯らし吹く公園のベンチにひっかってかさかさいってるコンビニの袋みたいな気分になってしまうの」

「第一クリスマス当日でなぜそんな淋しげな情景になってしまうんだよ？ ま、クリスチャンじゃないからそういう誤認識をせざるを得ないんだろうけど」

「あ、あたしは…なんだろう、取り敢えず無宗教ということにしておこうかしら」

「はあ、まあそれはそれでいいけど、無宗教だからオールマイティどんな宗教でも受け入れていきましょうということころかな？」

「うんうん」

「でも、例えば入国検査で無宗教者とわかれば、途端に検査が厳しいものになったりするなあ、共産主義系テロリストとか、無政府主義者かと思われる。つまりなんでもいいじゃなくって、なんでも駄目ってことになる」

「えーなんでー！？ そんななんでもえーやん、日本では宗教は自由ってことは宗教しないでおくってこともいい

ってことじゃないの？」

「そのとおり、だけど世界の多くの国では信仰する宗教をもたない人は奇異な者、あるいはなにかしら危険な信念を抱いている者、と捕らえられても仕方がないんだ。信念なんてもってないから無宗教ってわけじゃない、無宗教なら無宗教を積極的に選んだものとして認識されるのだろう」

「パプでは政治と宗教の話をしてはいけないのよね」

「なんか違う気もするけど、とにかく、宗教とか政治のこととかってその人の根底にあるものだから、無宗教は、きっとそうでない人からみてきっと信じられないものなんだろうね、自分から宗教を取ったら自分の礎が失われ、自分が自分でなくなると考えてしまうことは想像に難くない」

「そうなんと日本では自分の礎がない人が多いわけだ」

「そんなことはないだろう、宗教でないものにその礎を置けばいいだけだ、或る者は家族に置くことだろうし、また或る者はそれを仕事に置いたりもする。それだけのことじゃないか。それに、信念的には消極的な無宗教かもしれないものの、表立っては幾つかの宗教への信仰を伴った生活を続けているじゃない」

「そうそう、それがあたしが言いたかったあたしの無宗教。臨機応変にその時々において最も相応しい宗教をチョイスしてうまく活用していく、これこそが来るべき新世紀にベストフィットした精神活動と言えるのじゃないかしら」

「なんか、その『かしら』って助詞がでてくる話口調に限って、非常に胡散臭いな。それにしても、そのベストフィット精神活動って言いかえれば適當ってこと？」

「適材適所って言ってよね」

「ま、そういうことにしておこう、で、それにクリスマスを祝うことは含まれているわけ？」

「それは勿論っ！」

「じゃ、そういうわけで、改めて、ミレニアムクリスマスに出会えることはなるほど奇跡的な幸運なんだなあ」

「でも、それって変じゃなかったっけ？ 確か去年、人間百年生きれば一遍は世紀末迎えるし、それがたまたま千年紀末なのは10回に1回だからって」

「でも、いざ二千年紀から三千年紀への移り目になるといろいろ考えてしまう、こうやって1年間も考えるテーマになるだけ、きっとすごいことなんだろうという結論の達したから、これはこれで偉いのではないかと思う。幸せだなあ」

「なんか、千年紀末で世紀末で年末かつ、週末ならぬ終末な感じがするう。世界はどうなるの」

「二十一世紀はきっと動物と自在に会話できるようになって小学校とかでも動物語の授業が行なわれ、人々は動物達と共存共栄し、平和になる」

「それって二十世紀になったときに新聞であった二十世紀予想記事じゃない？」

おしまい

Maki Rouel 2000, 11, 21

since 2000, 11, 5

